續勝栗毛十編 上

へ13
3124
13

拾八上

ヘ13
3124
19
特

續膝栗毛 十編

逸舎一九著

全二冊

英盛堂版

序

[illegible]
つをみるもまたわすれいとまなし
ひとなりしかるにいかぬしうし
ちり結ばれんとまもしつつかた
まのうちこ出たまのまをつ
ゝみる 黄泉のおもてを又
ゝまもの月よりわれいてゝぞを

いつかたもとをしらの
口行はい、こるなを
指をみちをして馬のあしを
さすらのたちとふしきをん
をきんしかし他者の
道をしらして人のある
くらしいきる巨燈きをの形
きをを

くを

附言

昂去禁越後紀歴そかへるち若光寺と草津の温泉を
あるむをみ大笠通をの人を俵間山れを山中を見
間のやづしきをを九編同の紙面を世至十ぶし初秋の須
よを行ふ拾ひ〜伊奈ふ街道大峠邑ゆて書画の舎
を雇をしを山中辟地の人まで考ぶ二俵のおを〜くを

さなぐの寺院あるいはこと此編に孔澤と利大明神遠
場深沢までの新町なり
同西仮田市場下宿本曽妻籠へ出る道行程
八里のあいだ険難の山道ゆえ
同者と連れなりて大平との峠の宿より同所
なる取手が僕鳥眼との
酒をかりて夜中眼のそぐるおりみより男ひとりる
新町泊りの所宿八ヶ田代屋の清蔵と
中津川扇屋の亦逗留まりの時相宿の旅人ゞ
途中の話をそれ〳〵後述るゆえなると草津温泉

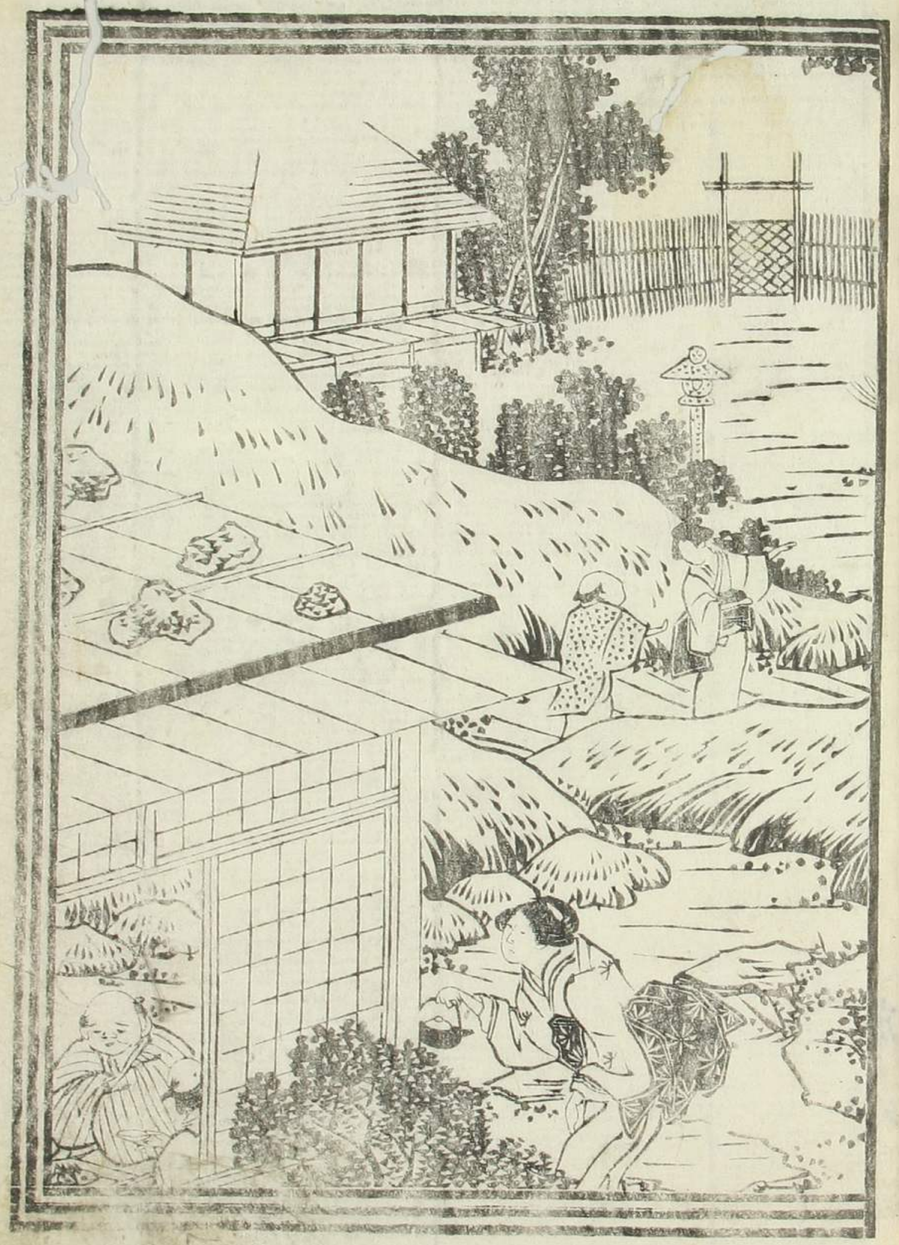
彼宿八ヶ手籠の新町より次
福島彈箏屋とへるかたの婢女清とよぶ鄙ゆえなる
かれこれ考へも早無まてはなくなく奥
ある夜ゞも出る住せ丹いひたれ旅人を笑はまるて
のおりゝ見べき事津温泉の新町より次
十編下巻と敷多れて漸く草津入湯まて続る
此次十編巻金く東海道帰路漫尾ホより草津より
中仙道ホ出板橋駅まで三冊まあへ新町悪く
おもしく耳ふるさる事のをを文〳〵ホあるまし
草稿中巻〳〵の巻〳〵の部江戸市本多八の

上州
浅間山
の
之づ
圖
あさまやま
十返舍一九
晋齊播文邦

上下の
あさ間
の
山下
雲

上州草津温泉之図

春亭画



草津金昆羅
桐屋のづ之圖

後名清玉屋とゝせ國〳〵より名屋を彩果生うつ〳〵の
拙作はゝ形〳〵右十二編中のうち八編は上の法も是
ゆゑ也今より是をもつて八編の後尾十一編の出詳刺冥義
常ゆゑ也

上列草津温泉道中續膝栗毛十編　上冊

東都　十返舍一九著

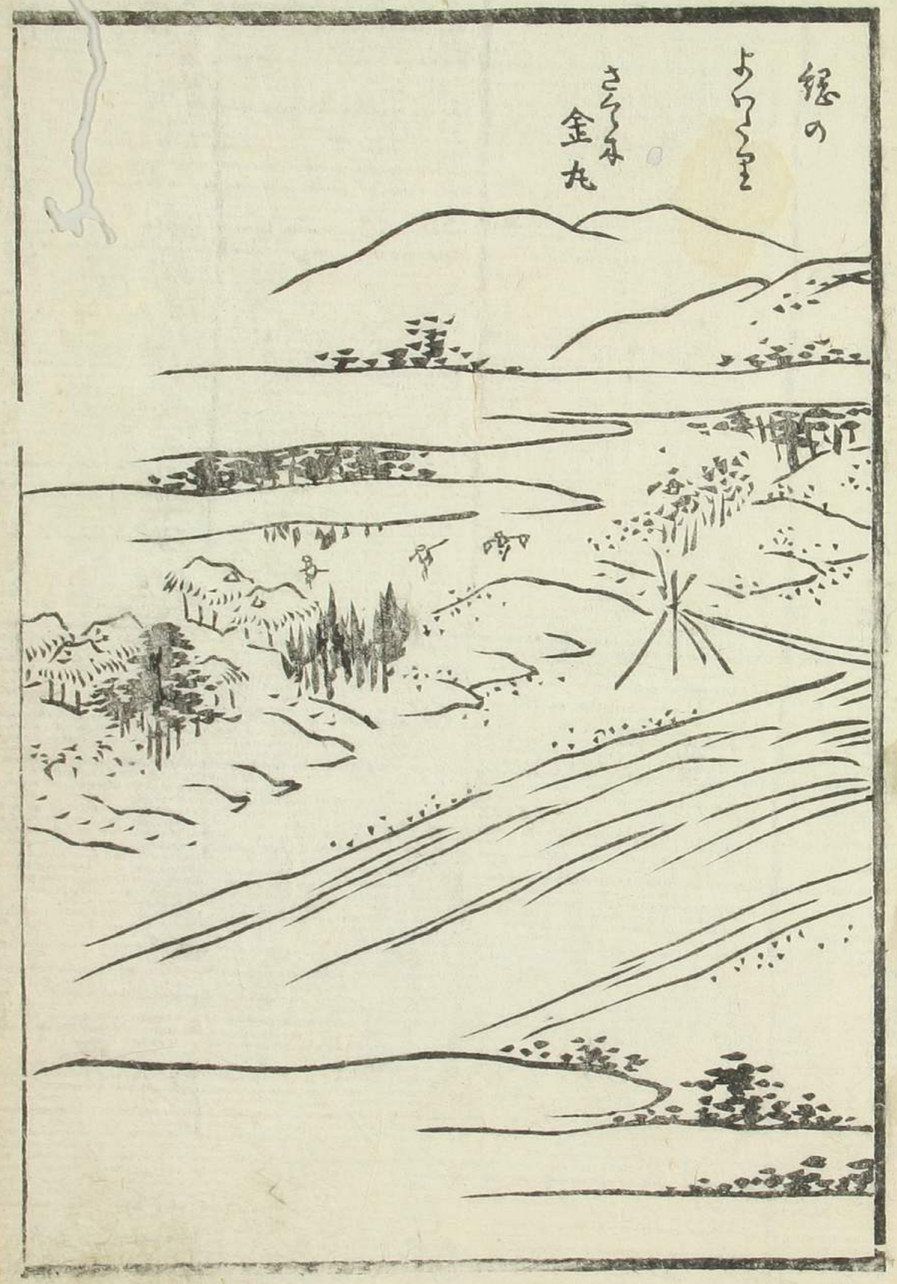
春の景色いつも東形玉。空をかゝる所をさゝ人青葉ふ
ふく新ふちゞき。未ゑるうけとうの輝ふしうゝぬ。信
濃路の蕨ふうかゝゆけば。鶏の乗ふ手力を潜りたゞ
かり。初松茸といふ力のへ蒙ふもゆゝ。さゝ是でも其の鮑
の生てたゝゝく。犀川のゐるゞ是ふ。金亀の光を彩け。
善光寺ゝ如来の利益へと。ゝ蒙ゝぬ力のなき衛道乃

雑し沢山の貴賤ひきもきらぬ。驛々の繁昌仏都
の切なるべし。海道第一清涼喜多八十ヶ所一宿しるべ
そなはり。上及草津の温泉ふかもむんとして。道の程
尋ね合せ。福富といふ所まで。安芸の人とこのこ。
きこゝの荷物を負せ。さるほどにて立ちるが。抑此
御寺は大笹越して。行程十八里のあなど。
山道ふゝて。仁礼田代大笹の三駅の外。旅人の宿なく。
雑沢の地のゝ形まくきりのゝ。朝こゝより昼を

いでき。善光寺の市とよちかの。稲荷の辺にあるとて
夜明るゝよ。此をこ田のゝ溢まて。陸来及あゝく。案
内の男ゝ。ゝ。二度まで滑び倒れ。見るる人
みるゝ拍手をあげて笑ふぞ。海道所の教ぞ

十ヶ所久を道のりさる為持まで
ゐるとゝ〳〵と屁ゝを注く
かくよゝとれば来るハもおゝゝぎ
屁餅を注くゝ〳〵ゝれば出るとゝ

雁宮の
あふ
なみ
や
ふ
形
舟
の
只
の


緑の
金丸

荷うちのあ〜の弱きなるゝ利
ちらひもさてぬふあり人〜。まるゞ〜ちう
名へび。物びる人ら。我さらびゝれべて。かく旅う
なまとて。ふ真い歌まるもおう〜〜。やゞて福富の
村そづきある。茶店ふいうまべ茶やの人おまやうば
ざりへ〜〜ト ちやちぶゞけのちやちんぶも人かゝさん。ゆぞうや人
ものあるやせう。酒いぞつふぶ〜のがあるう称人アイサ
仁礼の羽生田の湯がおゞ人をさらぶやア名代の

酒ぶアのへ人ニあるりう〜。中ゞ呑ごろいゝ〜ぶやア
孫人ト りれこれえるしてやまこゝぬるうち。仲甲〜〜ぐちのうこやうるしく。
はまあこりもと及べかうそうちくのあそきうけのこをこ三ちゝまま
引さげてもしまうア人ニぶあとくるよりのめぶ。ぶ〜がせ
ぶ人さんのぶう。ろうるのぶあてこもるへトうぶ〜をいるうぶ
うち人さらるぶ〜ちてのうこよう。ばこうのこるもぶうぶ
あるぶぬぎ出てうけまう。うちのこいもよむれ〜人コレその竹の
子へ。あ〜ぶが義う〜出このぶ〜。ぶ〜ぶりのぶよ。あぜ
ろうて人さる人ニだうアぶぜう。アニコレあ〜。かへきな人ぶ
ぶ人きのナイン子さうの人へせ〜〜トうぶんの竹のこもとうふくう
とぶちまのとせうあふぶぶうれ

あるで。うろうろしてもうるゝまで。うちのまよりかきまへ。
いづくとゆきさとへはなりてやうく。うろうろとひきまけこゝへ。畑のとりこと
きうゝ移へが。きがうふゝみせへ。ごふゝこのごへ。ゆやまゝ
ことの竹のまを。きりつめがこうあつこう。へせといふ
ちんでごゝゝアの人へ。アニそんこの藪でこちやアゝきへ。
あゝゝが畑へきこのごアの人へ。イシヨ。去こやふゝこのを
こけへ。きへこふやア遠へ。ちがへ。あゝゝが藪ゝふゝの
畑へ。ちうどりと竹の根がこりてるつて。きへこのぐ
ゝあゝゝが竹のこぐへ。せゝへ。アきこゝ。ちめへの

ここの藪の根が。こりちの畑へ。ちるふよりて。筍
がこへこう。ちての出ゝ。ごこりこのぐこ。コリヤ出てん
高が。ほ屋ぐ。たゝへ。あへのこの藪の孫ゝ。出来
こりて。こりちのきこけへきこりのこりてもう
ぎやア移へこへ。そのこへ。ちめへの藪の根こ。こちの
きこけへ。出移へこうよきこ。ふへ。おきこ。コリヤよく
いりて。こ見こうせへこ。あゝ。ぎぐここアいへ移へい。
コイひぬくがゝくやこ。めがへこいく。ゆゝこふらやア

竹のさぺ。さいてあるぺそんぐいまぐぽーくーさる
うんぐあぐ。どんぐぽーふーとこの牛ぐ。あーくーの牛弱屋
でるとえんぐーた。コリヤさちくのうーくーのうんぐのぐ。
そのうーくーのさと。あーくーさぐ。ぽーこくへひくせてよ
とーくーぐ。そもとと。かちくへせーくーあるわぐ。ちまもも
うーくーへくちのうーくーでも。おめくの雨で。えんぐうぐ。
コリヤ。おめくのさくへぐくさるりのぐ。そんぐ。ぽーと
あーくーがゆーくーさるさんぐあるぺとちんぐぽーふーー

とと人いくとーくーた。ゆーくーの雪陣へいくぐ。ちちとちんぐ
あぐ。ちんぐも雪陣へふーとこのちちんぐぐ。ちれと
尾へあーくーぐ。ぐ。サアそんとれとれのとよこをう
の人ぐいくーくーでも。コリヤこれていけちやアイニコ和の
かんのくれとのへいくるぺあーくーぐのとよとせぽやりの
へくへるぺくぺ。あーくーがのへでかくーでるぐんぐを。甲乃
きぐくをまくんとゆーふ。祝ぢくとくてあるちぐぐ
ぐくコノぐぐくー犯化あぐ。ぐいくんふぐぐをちやアト

つくこかるをとこるもゆけど。あ〜〜〜〜待る世ぞうろく。
そふをきさ八まさあ〜る ぎめ

たゝくいんで牛のゝ子と雪陸へぞんぐうゆ〜てらひ
ぶちあ〜〜ぞ引抜つて筆の一件ぞ。コリヤ子ちぶ伸人
ぐ〜〜ゝ世ぞ。牛のゝ子へこゝろぞ。こゝ世あゝゝ三年
づ〜ゝけ世ぞ。そゝで双方ゝあるめんぐ孫ト
あわゝ人ゝけてゝれば。これゝてふゝゝゝゝゝ。コリヤ世あゝ
ゝゝのてゝ〜も。ゝまい〜て世ぞゝ。ゝゝちのてゝ世
おゝゝるゞ人でゞゞゝ〜〜ゝ。モシ世ぞ。ちやゝるゞ〜く
ゞゞゝ人ゝゝゝゝゝの人「十年」ゝ遠ゝゝゝのゝ。ぞ

とでもあるゝゝゝ。サアきて八いゝゝゝト
牛のゝ子と牛ひちぐ〜宣堅ゝゝ

さぐれゝふ〜のゝるゝてめでゝ
かゝて仕稼の鍛ふゝゝゝ。ゝゝ世ゝゝゝぐゝく。山坂ゝを
ゝゝてゝゝ。あゝゝゝゝ世ゝゝる男徳利
ふゝゝきづゝゝ白どゝゝ。ゝゝひてゝるゝゝけてゝモシ
ゝゝ人ゝゝ。ゝゝでゞゝゝゝゝ。ゝゝ孫ゝゝの一ゝイサ。ゝれおひ
ゝゝでゞゝ人ゝ。ゝ八ゝゝゝ。ゝゝ人ゝゝゝゝ。

いづくにでも
人畜の
ぞうり
酒みも

十返舎

でもつてゑんぎ（男）アノ出る日さるまへごろ人いう来るの人
（陸）くさ（男）ハア草津へ六たしめてうの人（中八）をそ
をそてゆきくらぶ。ちるかぐ名物かぐあり（くそ）て。焼が（かちや）屋
（陸）へ大きるものぐ（陸）ぐるぐるぐ（くらぐ）ぐるめ。茶屋そこの茶屋（くらぐ）くさ
ちぐくてめ〜アア〜〜（トえんくそるーつ茶ゆくもふよう。を立のてう
ぐるるるくてぶやちうかうあるうどの男（あに）
ちぐくて（おぢう）（ヨリキ）会せどめうぐ。ふさーくまちぐうて逸
中せちんぐぶてアいりも（ぐぶ）歳丈で。ゑんとんでくを（男）ハイ
ヨーもハアうちぐやぶせめうて。市を茶屋（どぶ）きるうんでぶ

ざうくを（かぢ）（ヨリキ）も持（ちぢ）ハおとるそをちゆを。を年ふゑ（きえ）
（あ）ぬ（つ）大雪で田冬くちぐでゑ。アがゑをゑんとんでぶうくと（そ）ト
あうるとむせうるるでうぶ（男）ハされぶでぶぶうくを。きる
いふあうるのとておかひ〜（ケぎ）ぶ。毛田冬くでさくく
稲んうくの雪ゆアア。ヨーどりのやうる。
さぶん風がひゆうくくのうてんうく。沈つくやでぶぶ
ゆくくくアニハアあ（ぐ）さるハ花岡ぶでぶさでぶぶくく
ちうんでぶぶし法らうく。のふ（ぐ）さるさる（トうゆくおせうおうう
（わ）てあいちゆぶ
（ゆきを）ぐるくと（男）アノぶどあぶめぶ。あうくうてぶんでぶそうさるくと
（怪主）

いやア。返事もしなんでらさあつと。とんでもとらんと。ほうこうこうこと。
あんこさんこんが出来かねごろう。おめんあがめて。是信さまとらつ
かのと。接拶もしなんとらんと。アノ和尚めが。何も考へ稀人
くらんこの男アニ考へんこの世ヨアが。ヨヒーのちんを。
舎弟くくらこ。おぜヨヒーの名を金七くらこ。名れ
いんかんで。舎弟さアごらんとんごこヨヒー今のだあ
さとよ。きんさんが。あつこが。むぢ考へ多くらして。
あんまいんちんごの人ハアその金弟とらんこと。お

めんこここ稀人こ男ハアどんこヨヒーをめ事多人ハアいつて
きこせここ。金弟さアあなさごろがのこまさそまごで
ここ金弟くよくこ沢下さ負がらんこと
さ男ちんごの人アニコレヨヒーは心ハアどろがこここさ
ちんハナ人よこヨヒーのちんとせヨアめが。金弟くくらん。
業の者さちんごアの人トひこうもせこふたを立るとのうち
こてだふらこる。山の中ふらびこげるこ。ここ大明神こらの
名の京あこ。ふこんとのうちんちこ人ハイ出めんを世人ザアく
いんぷくやんていこんトトをうけるくらの男もこ人ちこ。こちくく
まる世ヒ。この男の本ちんこのこてだの

ちやをのてい
者とおくて　コリヤ　おとゝ　ぐ〳〵　せんます〳〵　ぞ　金兵
きこと　コリヤ　金兵　ちんぢ　者の　蕎麦へ　ぞ　者　かけて
いら　人　雲ぐ　ふぐ〳〵　ぢ　可　おけつちやア　あ〳〵　者　人
とおりみの　ぞ　コノ　よこ　ちの　せるア　めが　あ〳〵　ごと　ふ　あぜ
金兵　ぞの　人　可　ちの　めが　あゆと　ぐせる　ちやア　金兵
ぐ〳〵　人　金兵　ち　張　〳〵　主生　者　ちん　くが　きと　あ
きれ〳〵ア　可　イヤ　ちん　と　者　まで　きく〳〵　でる　人　ち〳〵
者　ちん〳〵　とおぐ　やア　人　ぐ　せるア　とそ　ふ　のち　とい　ふ

そん　ち　伊　森　ち　が　畑　の　ぢん　ぐう　と　金兵　〳〵　と　ちん　ぐ
あ　〳〵　ち　可　ニ　あ　と　ぢん　ぐう　と　者　ち　ん　〳〵　ア　あ　の
ち　ん　ぐ　ち　ち　ア　可　〳〵　あ　の　ち　ん　ち　ア　ち　ち　ア　ち　者　人　と
おり　ふ　の　ぐ　ま　ぐ　〳〵　そ　ん　ち　ア　ち　年　通　の　と　た　ぐ　ち　け
の　ち　者　ふ　おぢ　ふ　ぐ　と　の　ぐ　ち　ア　と　者　可　つ　ち　人　て
む　〳〵　く　者　ち　ん　者　ち　ぐ　や　ア　ち　人　ち　可　ニ　お　ぐ　け　と　ん　を
あ　ふ　ぐ　ち　ち　ア　可　コノ　ぢん　ぐう　者　ち　ん　ぐ　ち　ア　者　ち　ん
め　ぐ　可　イヤ　ち　つ　ふ　め　あ　ん　ち　ふ　そ　の　あ　ぐ　ち　ぐ　ち　い　ぐ　め

てんぷうろ　トやまとまうつくあみ　やれきてらみ　男　つきこがさそがわと　ちゆめまき上す　男　アイタ〳〵〳〵　金玉（きんぎよく）

とがみこ　アイタ〳〵　ゆ〜あ〜ぶが　金玉をぶちあてこと　男（ばか）　〳〵〳〵

きんぎよくがあくあみこと　男　ごくらうこ　そこら〳〵ゆやア

あくらが　そこそこ　女（そな）　ごこそ　ごこそ　女（そな）　あこそ〳〵　てきこ〳〵　ごと

男　イシ子　今まで　あつこが　むごと　女（そな）　あくらが　男（ばか）　おめくらちみ　おぬ

てまへ　男　インキャ　みこ　てまへ　ちご　女（そな）　ヨリヤ　せ

ゑア　あ〜ごがきんぎよくとごふ　女（そな）　この人　アニシ　女（そな）　とんがある

りんぐドレくそををわごあるものとまるまきこ　女（そな）

きんぎよくごの人　男　イヤ　ゑ　ゑの玉がゑくゑつる　男（ばか）　ヨリヤ　上　女（そな）

ぜ　ぜる〜あごがこのごろ〳〵〳〵。ぜんと　きこ　女（そな）。あこ　きこ　女（そな）

のみけゑせ。ぜんふよくくゑる　男　アゼ　ぜ　のみ　ぜん

こくこのぞふ　ゑる　とあんでよくくゑる　男（ばか）　ハテ　ぜよ　ぜん　あが　上る

きん　金ぐさごゑ　ごふり　ゑ　ぜごこ〳〵。つ　ぜる〜あごがこきんゑるがぐ

さごゑぶこ〳〵。ぜ　ぜ沢さん　ぜ　アいこ　男（ばか）　ゑ　ゑ　男（ばか）　三　金　ゑ　さん

ぎぶあり〳〵こ〳〵〳〵。あ　ゑ　男（ばか）　ゑ　ゑ　ゑ

仁礼宿より
大明神へ二リ
大こもりどんより
中の沢より
中のさと へ一リ
ちぶさと へ一リ
階沢より
田ーろへ
二リ
此あたりより
村さとゑく
山のふもとを
みて
湯ヲ山の
うしろを
ゆくを
ゆく

いざゝ飛ま
月の
沈るを
保ろ
きつね
愚合
一得

いきやすう。パイお世話ふろうゆゝとこのくとうをえちのづる

陰裏のふぬきがうへの事ひち

ふんぢゝうぬ　ふをとりのよとて

そをとよう中の澤といをとをおさぢ。澤沢の建場ふ

いつる。山ふも谷ものよにいきて軒ありて。ろ千あまゝ乃

むさゝろゝき親仁石背ぐふ茶ゆとうてきゝうるを

おのゞゝ人のゆもなるひるき

茶も　清澤の　山家ゝぐち〳〵

十四上　十三

安ふ去ぢゝく体ゝて之出るが。おべて些のゝぐ村里

ゆえぎ。俗間山のゝゝろ通ふて。樹ますゝふるく。芝

ゝの茅ろるゝ。ものも乃ゝて。退屈のあるりふ

ヤシトろふハ。祖父ゝおうろく新人ゝちで。晩のこるり

もろく者やアあるゝ人ゝ。麻よひゝ川新向がありや

ぎ。ゝんでもふゝうぶ。鶏耳と言よろて。こまろて凡

ゝうぐやア新人ゝ人ゝそゝ川おゝろ程ぐの。ドレくあるぐ

窟を出ゝて。ゝんでも長れゝうをこ川ゝかのゞ之自。

強いかうと。はんがうときめやう。トうきをむしつまそでうどをとらくさうきこハうどをぐ〳〵きめてあくことがあり やとぐうをとがあうふしうろ。

つんがうがきこえさうをまるう。めくらぶひとうし。目をあくうきまるこ。そうると。ぞうの強勢や酒のぜふと。

ひとうる出さうまこいつこふ者やせう〳〵勿論〳〵

うまとく。イヤまいつのまいとこる。ハヤあまとがもんのぐうそんるゝおめへの言。ろうちがぐ強弁ようる川てこうりや

せう トそうぐんきめておゆも田こうの者。ふつけがこやその日もたいさがうるれべこのもくふこうるうんこそえこゞやあるを見つけて

弁アリ〳〵むりふのうちへこうろう。おめへ民をふさぎう。

そうぐつ 言葉ぐうへ。ドレ手をひろていうゝトアそこうがぼこうかう

ひうきのふうをそこておそうの目をあこぎ。ゆハまるまと〳〵あさうる山でへうう

馬士

なへ乃をどこまエ。ドウく〳〵コノがらんぎやおなめがゝ。ある強へ

馬

こうちのつゝアこうこ。孫つまこうぐうアこうこも手持ぐうる

くうゝこうこうこうぐよ。ふこゝひん孫ぐうてやきちやア

トさとこちぐのサどうりのまうこうるぐこびの死ゝ手 手 ゆるざえる。おいてうまこうこえ

トサのこえがまるくおもひぐ話ゝ

目とあきこうふよ まこ ゆへ ゝコレ目をあくこと。こうの者と

かづるのごがぬ和う孫ヨリトよりく〜イヤ申和ごとハへ
ても。あ〜でらさ〜ぷつとかう〜ごま〜イヤまめへとて
鶏賀でぬるがく。そふきこ入てた。そ夜とおごろうごうめご
〜おンニそふごろけ。し〜ちとごやへまとで。そしちとあと
のこややと トちとごやのかごふ〜ハイよりお出かうへ〜と
〜ふろうづまごが。そ夜ごみで。お粥こややとぷんな
さるとさろ。ちと同ごが右見由るう。此つまの男ハ
かるうんがこござうやとろう。中面ぶごろうるまごく。

のよきこハ〜ハ天寿ごろうみう。ふ〜〜ちこまこ考ア
ゆきごがうのハ孫人〜〜ふのとこうで。ちまうとて
やと〜おンニそまこ中ア同中でだいざうへせう。ア おあ
ごうふさう人〜ト 中男こうのよとかうてろうこうハちうこと
ちごぎあごうゆハちごう孫こうのまとひきちく〜ごこう
〜今のハこうの鼻こう。ちろ力のハごみごへ人の居孫へ
こうこ中きこ入てもいうの〜こうさ。おいうもちのこうう。
同をあ〜てめ〜ア〜イヤりあ。こうのかアの孫へいけ孫へ
あまでも。女こ〜ひこうるうこうごこうこうハ足孫人

わらべ〜〜人（ワハ）ソレ人がうるぞ（張）ヨト亦（セウチ）〜〜トうろうろ人し
月とめうで
こちらこちらよりハカのいろびろる（娘）おちやおあぐうあうろ人し
おとめちやとかうろきうろ〜〜おちやおあぐうあうろ人し
（ワハ）ヨイ〜〜ちよいちやちそう。ソレ沼沢さん。茶ぐで。ぞそれハ
（ちやき）茶ぐうる。コレ茶（ちやそ）ぐうるぞ〜〜。まちぐ人でおむをの
ぞでもゆぎうめんぐでのぐ人おむをぞんぐうろうろれの。
コリヤ。あ〜〜とうるうろ孫人（張）ヨ〜〜とうろ幸抱（きんだう）ごころぐ
（娘）あうぐだとのやハあ人をうヨレ煙草（さること）のやハあうろうと
（ワハ）十二馬がちを（ちと）穀をうハ。ドレぐとふ〜〜（娘）ハ（張）ハ男ハ

いろうるうんぐうぐうぐう。ちうろうりいさ。ぞれふおめ〜〜
のうれ。り酒（さか）ぐあるうう。二三合賞（う）てんるうぞ人（娘）ハイ
大笹（おおざ）の向屋（むかや）の伺ぐようぐうぐ人をぞれておさう人〜〜さ
うう。おげ人ぞうト（娘）うてゆく〜〜。沼ぐう目をそうぐあきうて。むをめのぞろ
（まぐをぞ）ぞれハぞうぐうれぞうぐうれぞうぐうれぞうぐうれぞうぐうれぞうぐうれ
（ワハ）ん（張）ぐうぐ。コリヤ同ぐあいてゆうぐうぐ人（ワハ）ハ三さうて乃
娘ぐうぐうぐ。うぐうぐ人（ワハ）ハ男ハ男ハ男

ゆくへ
いて
行
当ゝ

あゝと
泣さめ
旅の
ゆく人
五返舎
半九

汐ハ辛〜さう〜ハ丁て辛〜〜。今おつ母さまが。あ
ゞ〻てお出なさう人を〜ソレさ〜やさう〜。を出〜る女人
トあ〜のおやゆびふざぐきとまきさぐ〜ふ〜〜の〜ヲウトいさぐき如ぐ元
まき〜〜つきつ〻るとこのまくさぐきをとりて〜ヲウトいさぐき如ぐ元
あ〜ゞて〜〜〜

あんなつゝをして。海鼠ふ女ざらぐが。さのおとゝゆへ
ゆるん癖が。あつて。女の股のうへのるとひかきるも
ちつくぐつくと。涎をこぼらせで。女の新をる
ぐるぐるけるきるつゝ。ぐるもうるさがりてこいつ
の相をまるるかのが。弱入つゝ。きるるゝまは。さらく
出らけてうんとさて。癖をきるつてひきつく。牧つぐが
ゆつくは。頃ちつとぐうつゝ。いらつゝ。癖くらゝ
かのいやるりので。ちつとをぐゝきてもぐた

きるうつるかのぐゝさの男がぐゝまふざけるが。
かるゝぐ。例へもよるるさえるを。弱耳めへぐんを新を
きてねやと。後生ある。かのぐゝぬがとを例でさん
るまるくいきれても。きるぬが。佛ぐゝ。娘ぐゝそよ
いひやせへをぐゝ。癖手のあつそるいろあひ
のおるこ。ゝさへきるゝ。おるゝげるきるくさん。白ひが
きるくおりへるゝさが。それでをめゝさの人。十三あれが
かるぐゝへ。コリャくをとるゝ。ソレ約束のところぐそ

今のがきと人〳〵そうおきのごとくナニきとるかのう。
あてどろかうるきとこと人とやるとこともあるが
此〳〵へる者でへるゆとりもきるろくんと
てる鹿げと郷と〳〵そのるごろ〳〵孫ホンニうんがく
とうかのへ家のきうを見稼るかんであり人を
ナントきと人〳〵めへるたるがきと人とうるかのコノ
和歌耳のもろはけつんがうの死人うんがうやアイ〳〵
ヲあ〳〵〳〵トはもちゆもつうとるてあり。ひもりかとうてもうゆ
ぐく来うてせんのもとをうるとはつぶひうとうさづけて

モシお客さま。お湯へお入りなさい〳〵ヲイ〳〵
湯へごぶ〳〵ハイとこれもち人お出るさう人〳〵トはこのあとひき
とこへぐるとアあ孫へこうるゆぐ〳〵うそとアあふ
ぐのへとアちとたかし〳〵ぞおこをとかさう人〳〵イヤ〳〵
を孫〳〵〳〵孫へトシトきと人るごろうぞ。これちのうんがうハ
うそうとこぞつをこのあれが肩ぐ〳〵。これちぐろ緒
ぐく見くだへつきあいがるんるよあれてんの孫義ゆ〳〵

うんぢう。こんるゐよ耳のきこえるゞ虫。そゝて瘡ゝきう
ぞとゝいろてん。激磨も孫人おとこ。念のこめ。あゝこゝて
見せやう。コレかこるせ人。支机を孫ぞ下ぶぞこと下ひとゝ
出来ものゝあこも孫人かゝぶぞ。きづくへのきんのゝぐも
孫人ゝう。おめ人ぞつぞ。そゝ扱ちゐそうとおいゝの孫こを
きいてゝるきへ孫人。ちんきとゝ。アノぞう先ゝう
人ゝくゝて沙汰形ゝ。立間ゝいうものゝ根性背のゝけ
孫人すのぞゝう。おいゝのまへだ。ゆうぞうんぢう。お

ゐ人のとゝろうきで。涙よそゝとナ。孫ゝく〳〵トゆやぐ
ひきよせて。あやるゝゝる更。沙ゝゝそゝゝ沙汰さん。ゆハあいて
さぞゝく。ゆうゝもどれば小八孫ゐ人ゝゝ
ぬゝう。ドレ。ぞゝう〳〵。猫よゝるゝていうふト。ぞとぞ
おまとあこよ人生ゝうつゝゝゝ。ゆゝぞ人ゆくゝ。沙ゝゝ
ぞとゆハきゝもとつぶゝ。そゝゝゝゝ。ゆげゆゝふゝゝそぞとゝゝへて
コレおめ人。びゝゝゝゝゝゝ孫。ゐゝちの立間ゝうそめゝゝ。
つゝゝのゆゐめ人。ゝゝうのゐるうんぢう。あいゝ人沙汰
るゝぐぶゝゝゝゝあの背耳ふつきゆうてやゝゝゝゝん
の猫蔵ゝゝ扱ぢゝう。めゝゝゝゆゝるゐてぬゝぶ。おゝ人

未盗人舎一河
女子ら
ふるもの
旅人の

気を
そなる
ふるえる
所丁ぜ
とのこゝき

めてゑをきく〳〵と。顔がほんとうてもう今までぢいと。幸抱
まで。目をあらざとよねる。ナニト。かゝとそふぢやア。移人久人
あいりめハ。ちんこうの強耳。癖が耳へ出てあのことう。今
度ちうちが。笑ひつまてめのごく〳〵。かるうぢあいり
めがごんるとこいりめても。相手まるりるさんを。そこて
ちうちが目をあるとこ。つんがう〳〵さこなー〳〵ふ。おめへ
そりと後ふ。まてうまてうる気い移人。コヤ笑うてだりう
ねてあまこう移へ。大こまれ。ど。ト。ぬとうあふひとうのこ
とこいるるがれうまが

むとあいさとぶいるるいそびもあ
うりどく〳〵。ゆう〳〵ゆとあうりた
久ると。泊てハまさ目とふこう
こもちきこう。ことをこうく。泊こう
ゆへ。まこぶよ移てこびひよこる
あるうこもびやこう移こう〳〵て。ちもさうぢ。ぶひこうるがれみて。
むとあを。まうちさこもハ。ひこうとこゆ移いうはんこて
取のふけゆくよまうこびく。こびづられまてあもハどふうるぐ〳〵。どうくこと
移ふう。うるぶ。まや大らびきあて。お後もまうぢ。
ついふ取あけるがうてよう。サがう。きこうて。おきゆ〳〵さる。かふ
あきちあこう〳〵。モこう〳〵。おきゆ〳〵さる〳〵。トよびあとまを
こうめをさるさ〳〵ぶうこう〳〵てきこ八あうこめをまこ。ちあう〳〵こうびハ泊て
もまこうぶてつんがうめるがうとこ〳〵てきよう〳〵こう〳〵こうんへ。こう〳〵て
ろんぶ。十二。ゐがふる。ハテ。そのこるこでハなうふこう。

トかくとつんがう・入ろうるもの（サガラ）
あらく・サがくれふくぎそまへ（ヤア）よふなどつんがうのおう
とがつさア同ゲ名人名人で。まことかくごくいひさう
へしさあるとがでんに同ともむきごくてつんがうのやうふ
きてよろくかくまへ。むどきまるるへまんごアのへト
いろあてうろろへ（張）（ホン）ニそみぶろけ　ト　まる同とさごぎるもおりく。
びつくりくて（ホン）（サガラ）ろてへゆくく。ふろうへ
とがひまんのうちよゆ爲・佳わ稱て考ひくをわぬるい。まこまるつがう
けまあひるうとあもんぶかどうもうとちてつうとふうしふてんの上ふあさ
あがうへ（張）いわへまうん。だんうるうせるかよあうこと　トひうどことを
あるぶく（張）にのはあてへ　とんごつまう稱へとを〜こ　ト　まぶかふるうてふはふ
あみふいはどそうく

あきいでくまあとつうふうちぶやどんとるもちゆがむとかいきうこどろ
ちやうちやのよかきうくどをこるどくふうのうをとうそむきうふ
おうくるひゆうどのこうをゆとあのまるるくふきしとうておりひゆうこうひを
まるゆどふうかうどうこうとふうしまとくふかうもうひまるひやほん
がうもやうもやあで。きうしうをうまるうそをとよくうまやくも。大笠世の狩ふらうる
世系八。いうて繁昌の地丹て。高家あまうこ軒とは
ら稱。強盗屋ゆる。中屋こいくるが妹ふ祇園こへうう
あふ　昌　ち　地　をえうひて高人の
根の　そび　ちうま　新　大笠の　宿
つどて大前。中井るどくふをうをを井まどだて。ゆど

なつく草津の温泉ぞいくつ歌

生茂る葉の草津ふまてうれたで

今を さうとひつく湯の花

續膝栗毛十編上冊終